（廿四日夕刊）

磐城新聞

「行け！海外へ」（下）

町ホジチエトンストア内

大井川和郎

我が國[illegible]の收入の主なるもの[illegible]つに海外出稼人の本國送金、歸國の際の持ち還り金の額が一年一億二千萬圓にも達し、金貨の流失を幾分なりとも阻止しつゝ有るを[illegible]へば、個々の力も微々[illegible]ば如何に其の大なる働きを爲しつゝ有るかに驚く[illegible]有る。海外には未墾の沃[illegible]未だ／＼無限に殘されて居る、努力さへすれば成功の榮冠を握る機會は日本よりも遙かに多く王侯の生活も[illegible]儘で有る若き血潮[illegible]青年諸君よ與へ[illegible]給料に滿足してひ[illegible]ら綺麗な衣服[illegible]得る事に[illegible]苦心して、一着の洋服[illegible]るにも半年も前の給料[illegible]ひ込み未だ貰ひもし[illegible]賞與をあてにして冬服[illegible]に心をくだく樣な切[illegible]詰めた生活に何故執着して居るか！如何に心をこめて働くとも跡に殘るは疲勞と醜心とのみ出ずる生き甲斐なき生活に戀々として居るか——足腰の不自由な老人は[illegible]物で有る、腕脛丈夫な青春に富む青年男女は何故に滿員電車に乘つて、空席狙ふの愚を敢えてして居るのか！目を上げて海外を見よ千頃の美田萬頃の緑野は吾人の來て開拓するを待つて居るのではないか、無限の寶庫を開く鍵は吾人青年男女の手に有るのである、行け海外へ、されど吾人は一年に一萬人か一萬五千人の人達が海外に出た所で我が人口問題食料問題が解決するものとは思はない、然し乍らさうする事は産兒制限などの亡國手段より遙かに積極的で有ると信ずるので有る、海外發展の其の目的は幸福の追窮と不幸の回避で有る生活の安定と[illegible]繁榮とで有る、民族の發展であり擁護[illegible]領土の擴張で有る、

胞一人の海外殖民は大和民族の進展であり日本國領土の間接の擴張である、人口過るに惱むのより勞力の不足に困却する國に移民するは行く者送る者共に幸福である、送る國迎ふる國双方の利益である。

今後の移殖民は一時の出稼人的で有つてはならぬ、永住の覺悟が必要である、行く所の天地を第二の故鄉と定めて骨を埋むるの覺悟が必要である、北米に於ける移民の失敗は一時出稼人的、金を取る事にのみ急にして、市民としての權利を獵得する事をおろそかにして居たが爲であつた前車の轍を踏まず、今後の移民殖民は土地の確固たる權利を獲得し、市民權を得、政治にも參與し、少くとも代議政體の國に有つては同胞移殖民者よりも代議士を送つて同胞の利益の保護に努めねばならぬ、而うして始めて其處に殖民として完全の境に達したるものと信ずるのである嘗つて我等の祖先は勇敢なる國民であつた、山田長政のシャム一於ける日本町建設、八幡船に乘じて太刀眞向に振り翳して支那沿岸を荒し廻りて明朝を戰粟せしめたる倭傀木の葉の如き小船にて遠く喜望峰を迂廻してローマ法王廳に至りたる支倉常長等は我等の祖先であつた、家光の鎖國の政策は是等の勇敢なる國民をして眠れる獅子と化せしめ爾來三百年、桃原の夢に入り拔く能はざる島國根性を植え付けてしまつた、眠れる獅子も眠むる可き時は來た、昭和維新は急である、交通機關の發達したる今日距離の大小は問題ではない、何處にでも邦人の進み得る地に入つて一石を打つて後輩の先鞭を付くることこそ刻下の急務で有る、

人間至る所青山あり、骨を埋るの地は豈故山の地のみならんや、明日をも知らぬ老骨はおく可し、國を愛へ社會を思ひ生活の安定子孫の繁榮を望む若き血潮に燃ゆる青年男女は速かに去つて海外に行け不幸の廻避と幸福の追窮とを望むものよ海外に行け、而して第二の故郷を建設せよ、

展け！彼の地を

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

※明日の吉凶※

舊暦　十一月二日

新暦　十二月二十五日

▲一白　希望は達せらるれど失費は有りと知るべし▲二黑　公同事業に手を出す時は意外の損失を招ぐ▲三碧　取引き交際に心を配り拔け目なく働くが吉▲四綠　大望を企つるより整理するが勝なるべし▲五黃　大石道路に塞がり廻りて通れ退くは一日の損▲六白　先にのみ走りて跡の始末を忘れぬ樣すべし▲七赤　物事永引くとも心を緩めず勵は必ず成る▲八白　生業は思ひの外吉けれども投機には大凶日▲九紫　心を大海の如くし小故を捨て大勢に從ふべし

講談

血で血を洗ふ

（221）

高橋掬太郎創作　布施半八郎揮毫

月見の宴

表書院の大廣間は庭に面して襖を悉く開け放ち、白晝をあざむくばかりの燈燭、昌康を正面に右脇にお照の方、左脇に家老早間重太夫、それにつゞいて左右に家中の面々が綺羅星の如くに居並んで佳肴の膳部を揃へ、奥女中の面々が眉美しく化粧して瓶子を捧げて酒間を斡旋する。椽には月に供への團子、芋、枝豆、栗、柿などを膳に盛り芒や秋草を瓶に立てゝある、

やがて、月は東の山[illegible]を明るく染めて次第[illegible]にのぼつた

「こりや一同の者！」

昌康は聲をかけた

「ははッ！」

一同は平伏した

「今宵は吉例の觀月の宴ぢや、無禮講であるに依つて心置きなく膝を崩して飲むがよからう」

「ははッ、有難き幸せに存じまする」

一同は禮を述べて酒宴は大いに賑やかになつた

「こりや、誰ぞある、詩吟など致してよからう」

といふ昌康の言葉に

「はッ、先づ第一に私が致しまする」

と答へたのが祐筆の木村平五郎といふ武士

月好偏憐是夜深、三更致曉可分陰、爭教天柱當西崎、凝滯明光不肯沈

と、自慢の美音で島田忠臣の詩を吟じた

「うむ、なか／＼の美音ぢや。して、其詩は其の方の作か？」

と學問の素養に乏しい昌康は問ふた

「いや、これは拙者の作ではありませぬ、文德天皇の時代にありし島田忠臣といふ人の作にございまする、名月を詠じたるものでは我が國で最も初の書物に殘るものとの事でござりまする」

流石に祐筆を勤むるだけあつて、木村平五郎は一通りの説明をした

「うむ、左樣か、次ぎにお照よ、其方の舞が所望ぢや」

と、側のお照の方の顏をながめて云つた

「いゝえ、妾の舞などお恥かしく存じまする」

とお照の方は態と羞かむように云ふ

「いや、構はぬ是非所望ぢや」

昌康は重ねて云つた

「では、お恥かしうござりまするが、お言葉に甘えて拙なきものをお目にかけまする」

とお照の方は扇を持つて立ちあがつた

「さあ、ずつと眞中へ出て舞ふがよい。今宵は一同への馳走ぢや」

「はい、かしこまりました、では早間殿、御身が……」

と云つてお照の方は重太夫に何か囁いた

「承知仕りました」

と重太夫はにつこり笑つて膝を立て直し、聲を張り上げて謠ひ出した

緑樹影しづんで、魚木にのほるけしきあり、月海上にうかんでは、兎波を走るか、おもしろの島のけしきや

その頃流行の小謠「竹生島」を謠ふと、お照の方がそれに和して舞ふ

「たゝ見事ぢやのう」

昌康は我を忘れたやうに惚々と見とれた

「お見事でござりまする」

と一同は聲を揃へて賞めそやし割れんばかりに喝采した。

「お恥うござりまする」

とお照の方は昌康に一禮して元の座へ戻つた。美しい富士の生えぎわにほのかな汗がにじんでゐた

昌康は、それを扇で煽いでやりながら

「いつ見ても艶やかぢや余は嬉しく思ふぞ」

と悦に入つて云ふ

座はいよ／＼無禮講となつて、唄ふもあり、何か論じるもあり、下戸の者等は

御婚禮
御宴會
御忘年會
新年會
特にご勉強いたします
割烹　末廣
電話四二一

平町舊城跡
青沼醫院
電話四〇三番

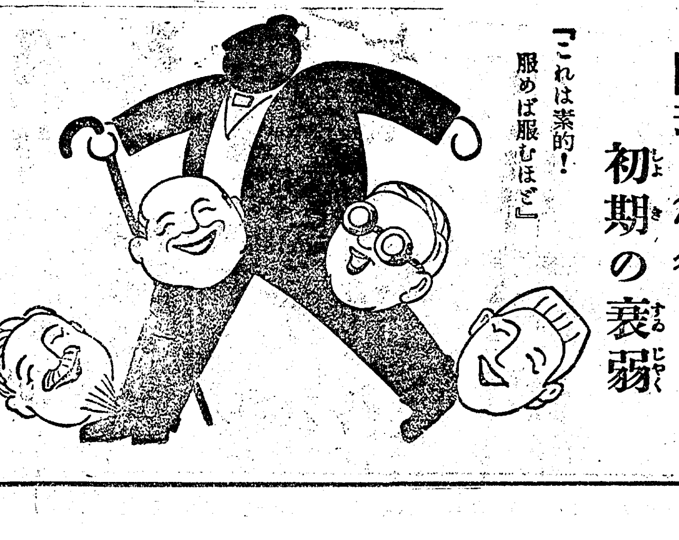
日活
百萬弗映畫
◇大日活新舊合同全員出動
大建國史　尊王攘夷
◇大河内傳次郎決死的努力主演
平館
公開期
◆三十一日ヨリ五日間限

營業品目　絹糸、絹紡績糸、染糸、組紐、漁網糸、人造絹糸、カタン糸、輸出用加工糸、眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一番　振替東京三三四番
糸界の羅針盤糸細通報御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

金牌一等賞數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

眞理の賣出し
（2×9）＝（3×2×3）
肉は三二三眞理で御座る
其肉はよく其値は安く此上なしとは
是れ又眞理
夫れに尚ほかけて
割引賣出し
肉は三二三
電話三二一三

内科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
（電話一一四番）
入院隨時



「生殖機能は
健康の中心
精力の源泉
閑却され易き
初期の衰弱
『これは素的！服めば服むほど』
トツカピン
生殖機能が‖減退すれば全身衰弱して、苦んだ揚句、遂には無上の幸福をも喪失する、遺精や夢精、早漏の徴候に油斷せず、直ちに召せ、トツカピンを
神經衰弱が‖原因で罪を犯し、精神に異狀を來し、落伍者となり、甚だしきは自殺するものさへある！何といふ恐しい現象であらう。賣藥に迷はず斯界の權威トツカピンを服んで直ちに復活を…
不眠症‖一晩の不眠がされ程身心を狂はすであらうか…二日三日と不眠が續けば身體は綿のように衰弱する、何んとかして快い睡眠を求めたいといふ人にトツカピンは眞向きです
精力增進‖生存競爭は日一日激烈となつて行く現代に「力」がなくて何が出來よう…百萬圓の金よりも尊きは健康と精力である。奇藥の如く清新なる活力を求むるものは服め！

戶塚醫學博士推奬
藥價
三十錠　三円
五十五錠　五円（携帯容器付）
百廿五錠　拾円（携帯容器付）
三百十錠　廿円（携帯容器付）
（用法）一回一錠　一日三回
發賣元
東京市銀座新肴町八番地　振替口座東京七二二一番
丁子堂藥房
大阪市西區立賣堀北通二ノ九　振替口座大阪百六番

噴火山上に亂舞する
危機の常盤炭界
磐城炭礦の亂賣が禍し
市場極度に乱る

常磐の炭礦界は二三年來打ち越しの不況が總決算期の年末に及んで極度の行き詰りとなり今や浮沈の危路に立ち各炭礦とも四苦八苦の窮狀にあるもの丶如くである、即ち十一月以降各炭礦貯炭を見ると

磐城十六萬噸（有無煙共）
入山四萬噸、古川三萬噸
三井、福島の三萬噸、大倉無煙二萬噸

の合計二十八萬噸に逹し常磐炭年產二百七十萬噸に比例し僅か二ヶ月內に約一割の貯炭を有するに至つた丈を見ても各炭礦の苦心經營の程度を察知するに難くないが、斯くの如く炭礦界古今未曾有の大量貯炭を見るに至つた近因は一般市場不振に依ることは勿論であるが、更に詮議すれば磐城炭礦が現在の苦境を切り拔ける苦肉策として淺野社長獨自の方針に基き從來の一手販賣業者との手を離れ淺野石炭部の手を經て各炭礦業間の協定を無視して市場に亂賣契約をなした爲め、常磐各炭礦に對する得意需要先きの注文が極度に減じ全く取引皆無の狀態に陷つたので各炭礦貯炭は益々增加し若し此の儘にて推移するときは共倒れの運命を除儀なくされるので去月十八日三井、三菱、古川、大倉、入山、山下の各炭礦主腦者は東京丸ノ內工業クラブに會合し磐城炭礦の亂賣に對する善後策を協議した結果、同業間の協定を盾に淺野磐炭社長に抗議を申込むに至つた、而して一方磐城炭礦に於ても倉田、渡邊の兩專務は淺野社長獨自の方針たる亂賣に對し意見を異にし去る二十一日開かれた重役會に於て淺野氏と他の重役間に意見衝突を醸し遂ひに流會を見るに至つたので目下各重役間には意見の取纏めに就頻りに協議中であるが來る二十八日開かれる株主總會までに販賣計畫に對する重役間の意見に一致點を發見し得ぬ場合は株主總會は大紛爭を餘儀なくされるもの丶如く觀測されてゐるが、右磐城炭礦の苦肉策による亂賣の結果は上述の各炭礦のみならず小田炭礦を初め群少の各炭礦も殊に甚だしき打擊を蒙り均しくその對策に就て苦心を拂つてゐるが、萬一磐城炭礦が右の方針を飜へさず亂賣を繼續するに於ては常磐炭礦界は遠からずして共倒れの運命になりはしないかと非常に前途を憂慮されてゐる模樣である

甦生の小名濱に
新興氣分漲る
他地方より入込み
土地は俄かに暴騰

小名濱商港が縣會で通過するやらや、小鐵道が昭和六年度のものが一年繰上て昭和五年度から着工と決定するやら小名濱町は盆と正月とが一度に襲來した如く、目出度いやら、嬉しいやらで、もう〱何の段でもなく唯上を下への大さわぎである、斯うなると、小名濱の價値は又格段と高騰し地價などは非常な昇り方である、第一目下のところはもうなんと云つた處で手放す人がない、今まで殆んど使ひものに成らず持て餘してゐた土地でさへ、現在では大暴騰を來してゐる、坪二圓五十錢位の處がいまでは三十五圓でも買手がない、それでも小名濱港が通過と聞くや、昨昨今では東京、大阪近くは仙臺、原町、郡山、若松、その他各方面から土地を買ひの、家を借るとで毎日のやうに押寄せて來る、であるから今まで斜めに貸家ふだに貼らしてあつたところなどは片つ端から、剝ぎとられ、どんなつまらぬところでもドシ〱借手が增ばかりである、こんな調子であるから猫の額ほどでも地所を持つてゐるものは思はぬ金もうけが出來るわけであるから大地主や町內の各大小商店など鼻いきは實に素晴らしいものである。めくまれなかつた昔を顧みて小名濱町民も全く何とも名狀すべからざるうれしさが止め度なく胸にこみ上る事であらう。

蠶業の發展を期し
高等養蠶講習
來春二月五日から
養蠶同業が主催

本郡地方の養蠶業は養蠶同業組合の努力と一般養蠶家の自覺とに依つて近年異狀の發展を見てゐるが殊に郡南方面山間方部の如きは昨今縣下に於ける有數な養蠶地として知られるに至つたが縣當局並に石城郡養蠶同業組合では更に一層の發展を期する爲めには高等蠶業法に依らなければならないとの見地から豫ねて高等蠶業の講習を計劃中の處愈々明春二月五日から四日間舊石城郡役所に於いて開催する事に決定したが講習科目は大体次の如で講師は高等蠶業學の泰斗增井氏以下である

△生產費の節減並に蠶兒飼育法、東京高等蠶業學校教授增井芳男△共同經營と繭取引、農林省技師永井治良△良葉と廉價生產法農林省產業試驗場技師鈴木廣吉　以上

平町の
今年度傳患
死亡は一割弱

平町では本月上旬から隔離病舍を閉鎖し現在一名の患者も收容してゐないが本年一月以降の傳染病發現患者數及死亡率を見ると發生總數六十二に對し死亡は僅に六名に過ぎず一割弱で前年度ノ發生總額八十四死亡十一に比較して何れも二割五分方の減少を見頗る良好な成績を示してゐるが斯逐年若干宛患者發生率の低下を見つゝあるは一般が保健衞生に目覺めて當局の指導を持つ迄もなく各自がこれに注意する樣になつたのと飲料水が上水道を用ひる樣になつた結果で之に就ては井戶水使用時代に較べ歷然たる數字上の確證もある程であるが何れにしても斯の如き現象を見るに至つた事は誠に結構な事である

千葉で逮捕された
綴局破りの犯人
茨城縣生れの男
罪狀一切を自白

去月廿九日午前一時頃內郷村大字綴郵便局の裏戶二枚を押破つて忍入り事務室內の金庫を破つて在中の現金五十餘圓切手數百枚外金側懷中時計價格三十圓を竊取逃走した犯人があり平署秘裡に犯人捜査に努め一方附近各警察署に犯人の逮捕方を依賴してゐたが昨廿三日午前六時頃千葉縣松戶町に於いて竊盜犯として松戶署に逮捕された當時住所不定無職茨城縣久慈郡佐竹村稻木生れ青木淸之介（四〇）は綴局荒し犯人に酷似してゐるところから嚴重取調べた結果遂に包み切れず綴局荒しの犯行一切を自白したが倘餘罪ある見込であると

平紹介所で
少年を斡旋
小學校と連絡

平町職業紹介所では例年の通り各小學校の卒業期を目前にひかへた昨今之等卒業生に適する職業を選擇して親切な紹介をなすべく目下それ〱各方面に向つて奔走してゐるが本年は不景氣のためか求人申込は昨年の約半數で紹介所員は懸命になつて求職者の全部を就職させようと努力してゐるが目下のところでは東京の三越吳服店から七名の少年店員申込みが好い口の方であると

平警察署で
消防講習
舊郡役所で

平警察署では今廿四日から三日間舊石城郡役所に於いて短期消防講習會を開催してゐるが今廿四日は縣から田中技手來平消防學の講演を爲したが聽講者約三百名頗る盛會である

明日休刊

天涯孤獨の一老人が
金百圓を學校へ寄附
毎日貯めた三錢の十數年
◆平窪村萬作老爺の美談

石城郡平窪村大字中平窪字樅枕雜貨商岩谷萬作（七二）と言ふ貧しいお爺さんから此の程同村役場宛て小學校の基本金として金百圓寄附を申出たが平素貧しく暮らしてゐるのを知つてゐる町役場では木田村長が不審に思ひそれとなく調べて見ると萬作爺さんが其の日暮しの貧しい生活の中から金百圓を生み出し寄附を申し出るまでにはこうした涙ぐましい苦闘史と美談が秘められてゐたのだ

× ×

萬作爺さんにも青春の血が躍る時代もあつた、親の許して吳れない戀人セイを伴つて郷里石川郡中谷村を後に所謂「た前さならば」の道行きを極めたのは爺さんが二十才の時であつた、爾來春雨秋風幾年かの放浪生活は遂に彼れを渡り鳥の土工にまで成り下らせた。金もなく職もない彼れが戀妻と生活するためには血と汗を賣るより外は路はなかつた、そうした幾十年かの長い放浪生活は彼れと彼れの妻を何時か霜を戴く白髮の老人に化した頃喘ぎながら彼等二人は悄寢し苦闘の屍を平窪村に漂着させたのである、斯くて村人の情に依つて萬作爺さんは五十の坂を越して漸く小作人といふ職を得、故郷を去つて三十年始めて人の暖い情を知つた萬作爺さんは此の平窪村を永住の地とすべく覺悟を定めたのである

× ×

彼等夫婦は其の日から力限り根限り働らいて村人の恩に報ひやうと努めたが老いた彼等二人では自分の口を糊するだけが辛じて出來得る程度でどうする事も出來得なかつたのを情に厚い村人達は此の正直一途の氣の毒な哀れな老夫婦のため小供等相手のさゝやかな雜貨店を開いて吳れた

× ×

萬作爺さんは其の日を記念するために其の日から貧しい暮しの中から一日の貯溜めの中より三錢宛を貯える事に心の中で堅く契つた、其の日それは大正四年の暮師走に入つた一日であつたのだ其の日からもう十幾年か經つてゐる萬作爺さんは八年前に苦闘を共にした愛妻のセイ婆さんに死に別れても毎日欠かさず竹管の中に入れた三錢十幾年かの今日積り積つて百圓を越してゐる、村人達ちの厚い情に報ひるのは此の時ぞと萬作爺さんは此の百圓をもつて小學校に寄附を申し出たものである

× ×

妻もなく親も子もない天涯孤獨の此の老人が一日三錢つゝ貯めた百圓金を小學校の基本財產に寄附をした、と云ふ事は眞に富者の萬金にも勝る、貴い百圓である自己現在の榮華と子孫の爲めに美田を購ふ富者はあつても社會公共の事、顧みない人の多い當節此の萬作爺さんの篤行こそは近來ノ美談として賞するに價するものがあろう

疾くもけふは
五千通の年賀
あすから大多忙の
暮の平郵便局

愈々明廿五日で諒闇が明ける、あはたゞしい暮れ氣分の中に此れはまた一入のあはたゞしさを見せる平郵便局の年賀郵便も愈々明廿五日から取扱を開始するので今日邊りの忙しはまた格別であるが幾分なりとも年賀多忙さを緩和しやうとの局では纏まつた年賀狀には特別期間外でも便宜上一時預りをしてゐる事既報したが既に今廿四日は午前中だけで約五千通の年賀狀が舞ひ込んだ程で明日からの取扱であるだけに今夕あたりから續々舞ひ込むものと觀て局員の臨時增加と共に一大活動を開始してゐる

農銀は九歩

株式會社本縣農工銀工重役會は二十三日午後一時から樓上に於て開會白井頭取を始め白石偵美、小林富吉、田代與三久、八田宗吉、齋藤吉兵衞、の諸氏出席本年下半期の營業狀况その他承認を得たが本期の配當も上半期同樣九分の配當に內定した

遙拜式
先帝御一年祭
平町であす

平町では廿五日の大正天皇の御一年祭當日各官衙學校役場町會議員、區長、在郷軍人會、青年團及訓練生赤十字社員等を網羅して午前十時から第一小學校に於て嚴かな遙拜式を擧行する筈であるが尙一般の遙拜は十時から正午迄に行ふべく夫れぞれ二十四日通牒を發する筈である尙喪章に就ては之を間違へば不敬に亘る事でもあるからと伏見町長はつけ加へてゐたが御一年祭當日迄は國旗のみは喪章を付して置かねばならぬが裝の喪章は用ふる必要はないと

不夜城の鎌田も
年末は淋し
牛太郎は行火の番人
五色町の昨今

平町鎌田遊廓は世の不景氣とは全く沒交涉で此處ばかりは何時も賑ひを呈する不夜城であるが打續く財界の不況と殊に年瀨も追つた昨今客足は全く杜絕えヒッソリカンとしてゐる流石牛太郎も來ぬ客までは誘ふことも出來ず宵口から行火と股をひろげ番臺うづくまつて赤井風、頰ぺたを打たれながら張番してゐるが此五色町遊廓六軒の娼妓四十三名も亦

お正月が目の前に近づき夫れこそ旦那は一向姿を見せず着換や出入商人の借金に苦しみ居据まらず茲二三日は電話口にブラ下がり盛んに媚びを賣つてゐる有樣で十二月に入つてから遊び客は去る二十日頃までは約六十名近くあつたが二十一日夜からは二十名臺に下り娼妓二人に一人の客の割合で此時小金をもつた遊治郎の遊び時とも

◆不景氣になると與行ものか繁昌するとは、昔からいつたものだが、なるほど此頃の活動寫眞館は何れも大入をよんでるのは、活辯ではないが雄辯にこの社會相を說明してる◆ナンモ冬の夜長を安價な享樂に時間を消すには、キネマに越したものはあるまい、これはかりはアメリカで見ても東京でも平でも同じなんだから好い◆とうも平町として晩餐後の娛樂機關が少いのもノだ、仕方がないから夜セリに出かけては、いりもしないものをハヅミでセり落す◆そうなると料理屋遊びは高いものだ木魚のように座蒲團、かまへて陶然として女子にチヤホヤされる氣分は又格別なものだオイ歌澤を一つ聽かせよう政勇モット調子をさげな。

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

鼻のクスリ　**チクノール錠**
痔の最高內服藥　**ダイサン錠**
平町五丁目角
山野邊藥局

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

田町聯合
福引大賣出し
期間（十二月二十一日より十二月二十七日まで）七日間
お買ひ上げ金額　壹圓每ニ福引券進呈

景品種目

特等	最上桐簞笥
一等	上白米一俵
二等	キッコーマン ヒゲタ 醬油樽
三等	メリヤスシャツ
四等	鹿沼ホーキ
五等	上等桐下駄

七等迄デ山なす景品

各商店大馬力をかけ良品廉賣
御買ものは田町へ……
田町睦會

歲末　**進物用品**

メリヤスシャツ	七八十錢ヨリ二圓位マデ
本毛シャツ	二圓五十錢ヨリ十五圓位マデ
婦人毛シャツ	壹圓五十錢ヨリ五圓位マデ
都卷	壹圓三十錢ヨリ五圓五十錢位マデ
オーバーセーター	二圓位ヨリ十五圓位マデ

便利ナ商品券ヲ御利用願ヒマス
其他各種取揃ヘテ有リマス
にツルヤ
電話百四十番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)　**釜屋商店**
諸橋久太郎
電話　九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり